

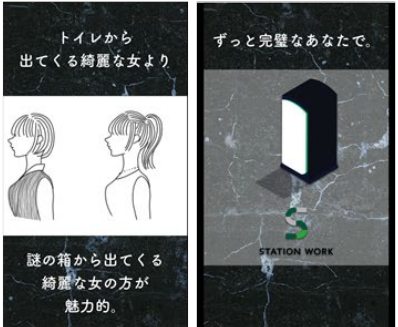
品川女子学院の学生制作によるデジタルサイネージ広告が配信されます！！

～JR 東日本 × 品川女子学院 オープンイノベーション型ワークショップ開催～

- 東日本旅客鉄道株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：深澤祐二、以下「JR 東日本」）と学校法人品川女子学院（東京都品川区、理事長：漆紫穂子、以下「品川女子学院」）は、オープンイノベーション型ワークショップを開催しました。
- 2019 年 8 月 1 日にサービスインした駅ナカシェアオフィス「STATION BOOTH」を題材に、品川女子学院の学生が新規顧客開拓に向けた広告制作を行いました。
- 全 11 作品のうち、一部作品については、2019 年 12 月 23 日より、新宿駅・池袋駅「STATION BOOTH」横設置のデジタルサイネージ「Signadia」※1 にて 2020 年 3 月末まで配信を行います。

※1 JR 東日本メディア株式会社が開発した独立式デジタルサイネージ (<http://www.jrmedia.co.jp/pdf/pdf.pdf>)

1. 配信作品について

	配信作品① 新宿賞	配信作品② 池袋賞	配信作品③ クリエイティブ賞
クリエイティブ イメージ (一部)			
作品 解説	周囲を気にせず女性が身だしなみを整えられる空間であることを、化粧室との対比を用いて伝えている。	30分の勉強を1単位としたポモドーロテクニック実践の場となることを、学生目線のクリエイティブで伝えている。	乳児をあやすことができる空間であることを価値として、「ママへ」というダイレクトなメッセージでその価値を伝えている。
受賞 ポイント	【価値】 女性はトイレの鏡でメイク直しをする。その際に列ができてしまうことが多々あるため「落ち着いてメイク直しができる環境ではない」という潜在的に女性が感じている問題をグリップできている。 【伝達】 人々からまだ認知が少ないSTATION BOOTHをあえて「謎の箱」と興味を引くワードとすることで、提供メリットとその提供場所を一度でインプットする工夫がみられる。 また、「ずっと完璧なあなたで（デート前や仕事に帰るときにそういたいですね）」というコピーもメイク直しの目的を捉えており素晴らしい。	【価値】 勉強は、一度やり始めると集中できる。しかしとりかかると大変なんだ・・・という誰もが思わず「わかる！！」と共感する問題意識に、実体験を振り返って着目している点が素晴らしい。 【伝達】 勉強に力を入れるべき世代にとって寄り道は「したいけどあまり喜ばれないもの」という中で、「怒られない寄り道」という表現はターゲットの意識に自然に入ってくるものである。認知コピーとしての的を得ている。	【価値】 電車内で赤ちゃんをあやすこと、また周囲に気を遣うことはママさんにとって大変ストレスになっているだろう・・・と想像し、そこを問題意識としたこと。「赤ちゃんを寝かしつけてから電車に乗ればいい」と解決施策が問題に対してアンサーできているのがわかりやすく良い。 【伝達】 背景が夜空（仕事帰り）ということ、ママへという直接的な呼びかけにより、ターゲットへのアイキャッチができている。 また、STATION BOOTHを利用した時に得られる価値を「家が近くなる」という表現に置き換えているのもHow to sayとして素晴らしい。
放映駅	新宿駅	池袋駅	新宿駅・池袋駅
放映期間	2019年12月23日 ～ 2020年2月末日（予定）	2019年12月23日 ～ 2020年2月末日（予定）	2019年12月23日 ～ 2020年1月末日（予定）

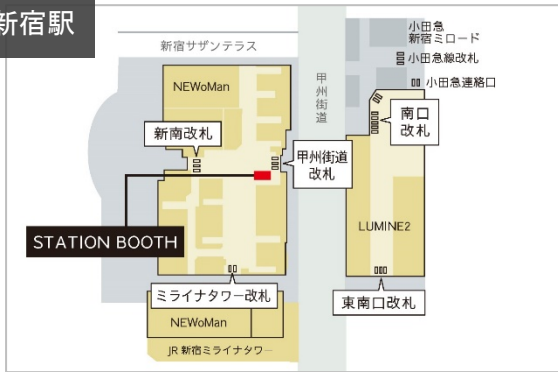
※各賞の名称は、審査受賞名になります。「新宿賞」「池袋賞」はそれぞれの駅で配信するのに相応しいと評価した賞、「クリエイティブ賞」は作品のデザイン等クリエイティブに優れていると評価した賞になります。

※クリエイティブは一部変更となる場合がございます。

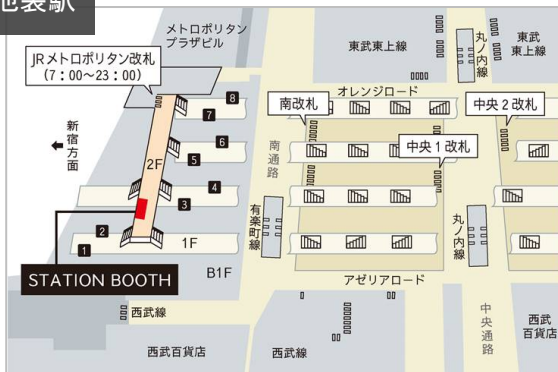
※上記以外の作品についても放映を予定しております。スケジュールは予告なく変更となる場合がございます。

2. 配信駅(配信場所)について

新宿駅



池袋駅



3. ワークショップ概要

ワークショップテーマ

STATION BOOTHの新規顧客を設定し、響く広告を制作せよ。

参加学生約50名(中学3年～高校2年)を11チームに分けたワークショップ形式

DAY1
(11/8)

DAY2
(11/18)

DAY3
(11/25)

STATION
BOOTH
の
新たな価値
を考える



マーケティング手法
を用いた
広告アプローチ
を学ぶ



チーム別
プレゼンテーション
(コンペ形式)



▲ワークショップの様子

1. ワークショップ講師について

東日本旅客鉄道株式会社 事業創造本部 中島 悠輝	学校法人品川女子学院 情報科主任教諭 竹内 啓悟	株式会社 TIXA ITEX 代表取締役 COO Founder 鳥海 良顕
		
駅ナカシェアオフィス「STATION WORK」の開発担当者。約 1 年半の構想および実証実験期間を経て 2019 年 8 月 1 日に本事業をローンチした。 今回のワークショップにおいては全体企画ならびに DAY1 の進行を担当。学生に対して、STATION BOOTH の女性利用が 20%程度であるとの課題提起を行い、女性利用を促進するための新たな価値を問いかけた。	テレビ放送局、大手教育出版社を経て、2015 年から品川女子学院教諭。Adobe Education Leaders 2019。 プログラミングやグラフィックデザインの独自オンライン教材の制作、高校生向け起業の授業プログラムの開発、また科目の枠を超えて企業と協業した特別講座の実施などを行っている。 本ワークショップではワークショップの設計を務めた。	前職にて法人営業、業務コンサルティング、採用・育成企画など様々な面からマーケティング戦略・戦術を学ぶ。現在はその知見を活かし組織強化のためのマネジメント講座や、採用戦略におけるコンサルティング業務を展開。 本ワークショップでは DAY2 のメイン講師を務め、「ターゲットのペルソナ・インサイト」「AIDMA」「What to say/How to say」という基軸から伝達におけるマーケティング手法を生徒へ伝えた。

2. 学校法人品川女子学院について

28 歳になった時に社会でいきいきと活躍する女性を育てるライフデザインを考える「28project」を実践する進学校。高校 1・2 年生がクラスで 1 つの模擬起業をする「起業体験プログラム」や、企業とコラボレーションした「特別講座」など、キャリア教育・ICT・起業家教育において、先進的な教育を行っています。（理事長：漆紫穂子 校長：仙田直人）

学校 web サイト: <http://www.shinagawajoshigakuin.jp/>



3. STATION WORK について

「働く人の“1 秒”を大切に」をコンセプトとした JR 東日本による駅ナカシェアオフィス事業。「STATION BOOTH」ならびに「STATION DESK」の 2 タイプのシェアオフィスを東京・新宿・池袋立川の各駅で展開しています。

2019 年 8 月 1 日の開始以来延べ約 8,000 名の方にご利用いただき、会員登録は 21,000 人を突破しています。2020 年度までに、30 拠点の展開を目標としています。



STATION WORK



▲STATION BOOTH(1 名用)



▲STATION BOOTH(2 名用)



▲STATION DESK 東京丸の内